時事新報

第三千六百四十一號
明治廿六年四月廿八日　金曜日
舊暦癸巳三月十三日（乙、未）
日　出午前四時五十四分　入午後六時二十三分
月　出午後三時五十五分　入午前三時十一分
滿潮　午前三時四十二分　午後四時七分
（西曆一千八百九十三年）

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

地方視察員の派出

市町村制府縣郡制の實施あり地方自治の制度漸く行はれて各地の政況を一變し教育衛生の事も漸次緒に就き殊に殖産の一事に至ては實に驚くべきの進歩を現し銀行會社製造所等其面目を一新し各地の產業駸々として隆盛の域に進む最近二三年間地方長足の進歩は實に世人の意外にあり本社は豫て全國各地に通信員を設けて是等地方の狀況は常に報道を紙上に掲げ細大漏す所なきを期すと雖も未だ之を以て滿足する能はず絶えず社員を各地に派して詳かに其狀況を探り以て殖產世界に利益する所あらんと欲し過般來計畫する所あり頃日準備既に整頓したれば今後は時々社員を各地に派出して地方の政況を始め農工商事各般の狀況を紙上に報道し讀者をして坐ながら各地進步の實況を詳知せしむること を期す而して今や重要貿易品の一たる製茶の季節に向ひたるを以て地方狀況視察の第一着手として社員**伊澤良立氏**を產茶地方に派し其狀況を探らしむる事と爲し氏は昨日を以て其途に上り先づ靜岡縣下の茶況を視察し夫れより熱田を經て四日市に出で三重縣下の製茶地方を巡覽し更に江州に出でゝ製絲業を調査し歸途名古屋其他沿道の地方に於ける農工商業の實況を探り日々之を本社に報道する筈なれば該地方の模樣は今後十數日の時事新報紙上に躍出すべし

二十六年四月二十二日　時事新報社

時事新報

新聞紙は贅澤品に非ず

先年米國ペンシルヴエニア州の某地に非常の洪水ありて溺死する者千を以て計へ幸に免かれたる者も道路橋梁盡く破損して交通杜絶したるが爲め忽ち衣服食料に差支へ慘狀見るに忍びざるの有樣に陷りしかば遠近の人民は擧て救助に盡力し數日を經て辛うじて衣食の必要品を被害地に運搬することを得たり此時に當て罹災者は既に三五日間殆んど絶食の姿にてありしことなれば救助の來るを見て何はさて置き先づ食物を求ることならんと一行の人々も其心して待設け居たりしに何ぞ圖らん彼の者どもが第一番に請求せしは麪麭に非ず肉に非ずして最近發兌の新聞紙なりしこそ不思議なれ救助者は其求る所の餘りに意外なるに一驚を喫したれども又退て考ふれば假令ひ暫時の間とは云へ一切人間世界の交通を斷絶して恰も暗黒の中に日を暮したる者が頓に浮世の光に接したることなれば喜悦の餘りに飢寒の苦痛をも打忘れて先づ新聞紙を見んと欲したるならん左もある可き人生の至情なりとて救助の人々も一入相憐むの情を催はしたりと云ふ

右は當時の米國新聞にも掲載したる實事談にしてヤンキー（米人）は新聞紙を以て衣食よりも猶は大切なる必要品と認る者なりとて一時世上に評判したることあり國民が漸くまでに新聞紙を珍重することなれば其國の新聞事業も盛ならざらんと欲して得べからず米國の新聞紙が其種類の多き點に於ても又その賣高の大なる點に於ても獨り世界に冠たるは謂なきに非ざるなり蓋し米國にては如何なる邊鄙の村落にも必ず新聞紙配達の道ありて我國にて云へば車夫人足の活計を爲す輩に至るまで苟も文字を知る者なれば樂んで之を購讀するの常なり左れば國內到る處として新聞社の設あらざるはなく又隨て相應の購讀者もあり稍や盛なる都會に至ては一市に數十種を發行して其賣捌何百萬の大數に上るの例さへ少なからず畢竟するに米國人には新聞紙を以て文明の利器、人生の必要品と認め之を利用して自ら利せんとする者多きが故なりと云はざるを得ず然るに我日本の事情は全く之に反し國中文字を知る者の多きにも拘はらず新聞紙を視ること甚だ冷淡にして之を必要のものと認めざるのみか恰も一種の贅澤品として弄ぶまでのことなれば之を購讀するは所謂質素儉約の旨に背くとて價の如何に論なく先づ之を家に入れざるもの多きが如し都鄙の新聞に其發兌の寥々たるも謂れなきに非ざるなり維新以來西洋の文明主義を輸入して政法教育等は長足の進步を爲し時としては出藍の名さへある其中に獨り新聞紙の一事のみ他に後れて進步を共にすることを得ざるは其事の新奇にして古來の習慣に適せざるのみの爲めに非ず抑も亦我國人が經濟自利の思想に乏しきが故なりと云はざるを得ず新聞紙を讀んで世の中の出來事を知るも唯これを知るのみにして實際に差したる利益なしと思ふ人もあらんなれども凡そ人間生涯の行路は千差萬別にして其何れの方向に進む可きやを決するは社會の實際に行はるゝ狀況を詳知して然る後の事なり之を知る者は迷はず、知らざる者は迷ふ、其趣は航海者が船を進るに山海嶋嶼の位置を知るの必要なるに異ならず田舍漢は遲鈍にして都人士は活潑鋭敏なりと云ふ兩者の天性に智愚の別あるに非ざれども唯一は社會の出來事に接すること稀にして其所見狹く一は耳目の觸るゝ所繁多にして知識見聞に富めるが故のみ左れば新聞紙は日夜人間社會に往來する百般の出來事を即時に報知し讀者をして坐して人事の消息を詳にせしむるものにして之を讀む者と讀まざる者と遲速鋭鈍の差は唯に都人士と田舍漢と相異なるの類に非ず或は之を評して人事の地圖、行路の羅針盤と云ふも可なり限りなき社會の波瀾を冒して安身立命の彼岸に達し以て私の爲めにして又隨て國家を利せんとする者は新聞紙に依らずして他に好方便はなかる可し我輩は新聞事業の盛衰を見て國運の如何をトせんとする者なり

官報

○遞信省告示第百三十三號
來ル六月一日ヨリ左ノ郵便電信局郵便局ニ於テ小包郵便ヲ取扱ハシム
明治二十六年四月二十七日
遞信大臣伯爵黑田清隆

國名	局名	國名	局名	國名	局名	國名	局名
武藏	深谷	武藏	所澤	武藏	桶川	武藏	板橋
武藏	府中	武藏	小川	武藏	川越	武藏	上尾
武藏	赤羽	武藏	鴻巢	武藏	川崎	武藏	保土ケ谷
下總	市川	下總	船橋	常陸	石岡	常陸	宍戶
上野	伊香保	上野	富岡	上野	新町	上野	藤岡
上野	安中	上野	磯部	上野	横川	下野	矢板
下野	氏家	下野	今市	下野	石橋	下野	喜連川
下野	黑磯	磐城	矢吹	岩代	猪苗代	陸前	大河原
陸前	增田	陸前	松嶋	陸前	小牛田	陸前	涌谷
陸前	古川	陸前	若柳	陸前	佐沼	陸前	登米
陸中	前澤	陸中	郡山	陸中	沼宮內	陸中	水澤
陸中	黑澤尻	陸奥	小湊	陸奥	福岡	陸奥	三戶
陸奥	野邊地	陸奥	浪岡	陸奥	黑石	甲斐	上野原
甲斐	猿橋	駿河	吉原	駿河	興津	遠江	金谷
遠江	中泉	尾張	前ケ須	美濃	笠松	美濃	竹ケ鼻
美濃	關	美濃	上有知	伊勢	久居	伊勢	龜山
伊勢	東富田	伊勢	桑名	伊賀	柘植	近江	水口
近江	草津	信濃	輕井澤	信濃	岩村田	信濃	屋代
越後	新井	攝津	伊丹	攝津	御影	攝津	茨木
播磨	加古川	備前	和氣	備後	三原	安藝	江田嶋
土佐	伊野	土佐	須崎	土佐	中村	肥前	武雄
肥前	伊萬里	肥前	唐津	肥前	平戶		

雜報

○愛知縣打瀨網事件の調査結了 一時兇徒嘯集の犯行あるに至りたる愛知縣下の打瀨網事件は其後主務省より岸上技師等を派遣し實地に就て利害得失を調查せしめたるが最早悉皆取調濟となりたるを以て主務大臣は目下地方官會議に付上京中なる愛知三重兩縣知事と協議の上近日夫々訓令を發布さるべしと

○新募屯田兵の移住期 屯田兵司令部にては已に此程より檢查官を各徵募地に派遣して應募者の試驗中なりしが右の試驗も最早結了して合格人員も已に定まりたれば本年は前年より其移住の期日を引上げ來る五月五日までを期とし最寄の諸港より汽船に搭載して三回に北海道小樽へ向け送致するよし尤も其移住地は石狩國上川郡永山村字トオマへ步兵四百戶を、同國空知郡沼貝村へ騎砲工兵百戶を配置する豫定なりと

○西本願寺の眞宗教會 西本願寺にては門末信徒の團結を一層堅固にし其敎法の普及を圖らんが爲め今度新に眞宗教會なるものを組織して其本部を本山內に置き一府縣又は一國を一教區と定めて每敎區に小會を設け全國の門末信徒をして悉皆教會員たらしめ毎年一回づゝ各教區へ巡教師を派遣し且つ三年每には別に一等二等巡教師を派遣して布敎する事に決したる趣にて已に一等巡教師香川葆晃師を該敎會本部長に命じたるよし

○函館慶應義塾同窓會 函館に於ける第三回慶應義塾同窓會は去る二十三日を以て同港丸茂樓に開會せり當日の來會者は左の諸氏にして頗る盛會なりしと

野田謙雄	久保扶桑	工藤晋平	山崎益次郎
本間駿作	五十嵐悌太郎	桐野弘	小泉松五郎
齋藤欽輔	田中敏郎	戶波長三郎	木本國英
筑前岩太郎	湯淺凡平	佐瀨得三	武富平作
高木五三郎	坂井正義	大野靜	

○第三回慈善音樂會 貴婦人の主唱に係る慈善婦人會は毎歲慈善的の事を爲し其收入を以て赤十字社病院をして貧困患者を入院施療せしめ傍ら貧院等の費途を補充するの目的にて去る明治二十三年慈善踏舞會第一回を催はし昨二十五年第二回を催せしが本年は來る五月十一日を以て之を繼續し第三回慈善音樂會を鹿鳴館に催すことに決定し目下其準備中なりと

○高橋市會議員の免訴 代言人岡野寛氏より市會議員高橋章備氏に係る約定金一萬餘圓の請求訴訟に際し高橋氏に於て私書僞造の所爲ありとて立會檢事の告發に依り東京地方裁判所に拘留豫審中の處一昨二十六日其證憑充分ならずとて免訴且つ放免されたりと

○下總古堂の修
井村大字米の井の三
天皇の御宇に創建せ
千葉常胤、德川初代
よし右千年近き古堂
のにて世に隱れなき
途を絶ち僅かに其筋
完全の修繕を加ふべ
に隨ひては軒傾き柱
職も手を袖にして座
し難く大に修繕を加
府の下賜金もあり元
等の盡力と紳士諸氏
以て昨年十一月修繕
吉氏へ工事の監督を
曲みを直しツマり覆
時の狀に復し猶霧除
創建の椽其他の材木
朴千年の舊態を保ち
せざれど暴風震災の
周圍に石垣二段を築
すら七百餘圓の金額
猶修補を完全せんに
するに至らずとて右
附屬の仁王門は將門の
暴風の爲め頽廢して

○三重縣下桑樹
縣下各地に蔓延し津市
りは悉く該病に罹り
せしものは僅に五六本

○毆打創傷無罪
次郎は同村會議員の
源助を毆打創傷せし
於て重禁錮二月に處
一昨日原裁判を取消し

○地方通信

○鰊漁　北海道西海岸
り鰊は大凡片附きた
あれど中には賄だけ
すれば幾分か優るあ

○落雷　宮城縣登米郡
九日午前十一時半頃
したるよし

○中毒　福島縣安達郡
は去る二十二日午後
連れて近傍の山中へ
の餘り山茶に似たる
じ痛苦一通りならざ

○躑躅　栃木縣足利町
一時中に在りて眺望
に於ける躑躅の滿開

○蔬菜會　茨城縣筑波
め波南蔬菜講話會を
益々振興する計畫な

○競爭　新潟縣直江津
競爭を始め去る十八日
錢に引下げ又其翌日は